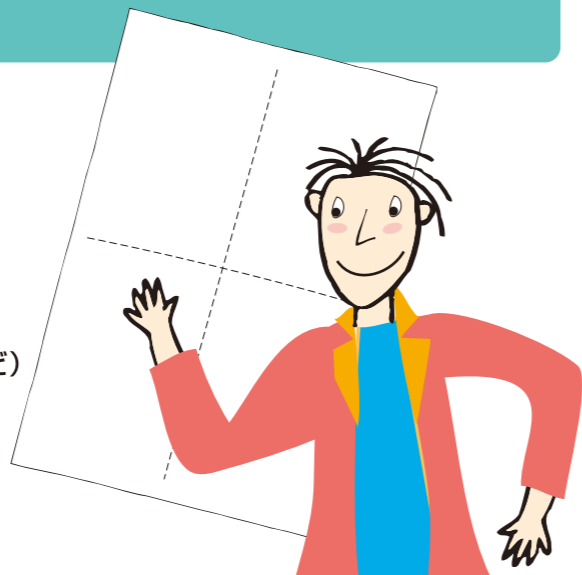


## 交流を進めるためのワーク

知らない人と交流し、話を聞き、たがいの思いをつたえあうことは楽しいことです。でも、初対面の人といきなり打ちとけて話すことはむずかしいものです。打ちとけて話ができるようになるためのワークをいくつか紹介してみましょう。

### 1 自己紹介ゲーム

- (1) 準備物 A4の用紙  
 (2) 展開方法 A4の用紙を図のように折る。  
 ① 1～4を記入(記入例)  
 1.名前  
 2.本日の講座に期待するもの  
 3.本日の元気を%で示す  
 4.講座のテーマについて思うこと  
 (→親学習について思うことなど)  
 ②会場内の人たちと自己紹介をしあう



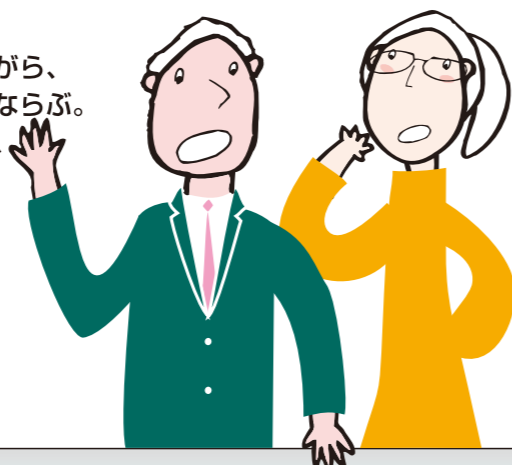
### 2 であいのじゃんけん

- (1) 準備物 特になし  
 (2) 展開方法  
 ①会場内を移動しながら、出会った人とおたがいに名前を告げあって、じゃんけんをする。  
 ②次々と相手を探して、必ず名前を告げあってから、じゃんけんをくり返す。  
 ③3回勝った人からじゃんけんを終わり、輪になるようにならぶ。  
 ④全員がならび終わった時点で、一人ひとり感想を話す。



### 3 バースデーチェーン

- (1) 準備物 特になし  
 (2) 展開方法  
 ①ことばを使わずに自分の誕生日を伝えあいながら、1月1日に近い人から順番に輪になるようにならぶ。  
 ②ならび終わったら、一人ひとり誕生日を聞き、順番が正しかったかどうか確かめてみる。



# 「活かす」

## エピソード

長く勤めた会社の支店長を退職した正夫さんは、妻にすすめられて地域のボランティアグループに参加しました。

地域の小学生と保護者がいっしょに参加した公園そうじの日のことです。

しばらくすると、子どもたちは、ほうきをバットにみたてて野球をしたり、公園のすみっこでしゃべったりしはじめました。

それを見ていた正夫さんは…。

正 夫：「君たちは何をしに来ているんだ！ちゃんと責任をもってやらないといけないじゃないか。」

子どもたちはびっくりしたのか、ちらばって行ってしまいました。

保護者A：「…いやあ、しかっていただいて助かりました。なかなか言うことをきかないものですから…。」

正 夫：「そんなこと言っているから子どもが勝手なことをするんですよ。子どもといっても、誰かがさぼっていたら、みんなのやる気がなくなるじゃないですか。びしっと言わないと…。」

保護者B：「うちの子はびっくりしていますよ。いきなり怒らなくても…。子どもなんだから少し遊ばせてやれば、そのうちにそうじするようになりますよ。」

正 夫：「ちょっと言いすぎたかも知れませんが…。でも、みんながやっているのに、あまやかせてはだめだと思いますよ。」

保護者B：「休みの日だし、ボランティアでやっているんですから。子どもも自分のペースでやればいいんじゃないですか。きびしくしかるとみんなの気分をこわしてしまいますよ。」

保護者A：「いやあ、かえって子どもはやる気になったようですよ。これもいい経験



になるんじゃないでしょうか。親が言うより、誰かにしかってもらったほうが言うことをききますよね。」

正夫：「……………」

川田：「話がもりあがっているようですけれど、ここはさきにひと区切りつけることにしませんか？おーい、みんな。こっちへ来て、落ち葉をあつめてゴミ袋に入れてくれよ。みんなでいっしょにがんばれば、もう少しだからね。」

ボランティアの仲間の川田さんのことばで作業が再開されました。



### 【話しあいのポイント】

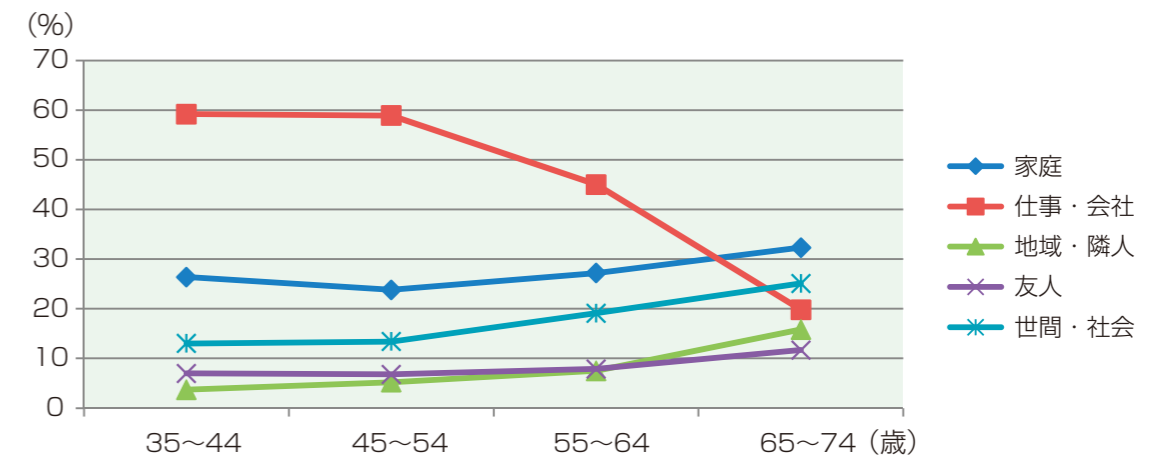
●正夫さんと二人の保護者、川田さんとのやりとりについてどう思いますか？

●あなたのもっている力はどうすれば活かせるでしょうか？

### 参考資料

### 生きがいを得る場

(2つまでの複数回答 対象：35～74歳のサラリーマン)

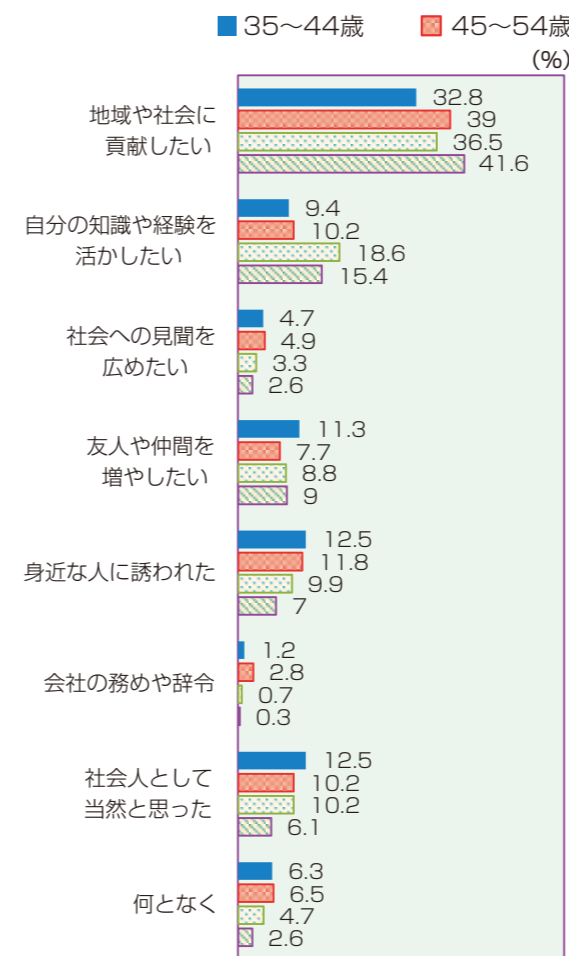


資料：(財)年金シニアプラン総合研究機構「第5回 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」(平成23年)

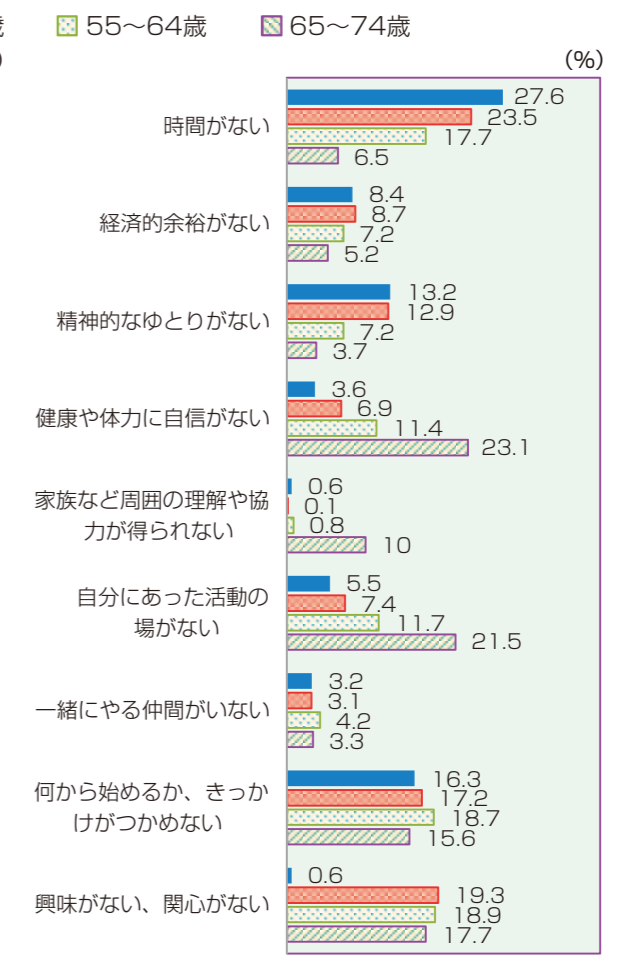
### 地域活動に参加した理由、参加しない理由

(複数回答 対象：35～74歳のサラリーマン)

#### ● 参加した理由



#### ● 参加しない理由



資料：(財)年金シニアプラン総合研究機構「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」(平成23年)